

# 大阪大学核物理研究センター 研究計画 検討専門委員会 議事録

日時：令和7年2月10日（月）10:30 - 17:10

場所：大阪大学核物理研究センター本館2階会議室とZOOMを利用したハイブリッド会議

出席者（敬称略・順不同）

センター長：中野

出席：今井（東大CNS）、前田（宮崎大）、鈴木（東大）、本多（KEK）、土手（KEK）、片淵（東京科学大）、山縣（京産大）浅井（原研）、谷田（原研）、佐久間（理研）、上野（阪大）、伊藤（東大宇宙線研）、松田（甲南大）、緒方（九大）青井（RCNP）、大田（RCNP）、福田（RCNP）、吉田（RCNP）、石川（RCNP）、梅原（RCNP）

陪席：板橋（理研）

## 一般報告（中野）

- 極稀現象研究基盤室の教授または准教授の人事が進行中である
- 加速器部門・理論研究部門でそれぞれ各1名の教授人事が進行中である
- 実験研究部門の教授人事が開始された
- 次期センター長に中野教授が再任し、任期は令和9年3月31日までである
  - 次次期センター長について選考作業を前倒しすることとした
- 国際サブアトムック研究拠点事業について中間評価がありA評価を受けた
- 短寿命RI供給プラットフォームについて令和6年度補正予算がついた
- 大阪大学福島拠点について令和7年2月7日からクラウドファンディングを開始する
- 概算要求に関する伝達事項について継続2件、継続拡充1件の報告があった
  - 継続拡充1件についてはさらなる拡充要求をすることが示された
  - 中規模研究設備については引き続き要求を続けていくことが示された

## 加速器報告（福田）

- 令和6年度の運転時間のサマリーが報告された。
  - 陽子およびヘリウム4が供給されており、Ne同位体等、重イオンの加速も開始されている
- 令和6年度および令和7年度初期の見通しが示された
  - 共同利用については令和7年2月および3月のコミッションングの結果を確認した後、開始する
- 令和6年10月以降不具合がつづいたが、修理・改善が行われ、全体としてはビーム供給について改善の兆しが見えている

- 前回報告を行った部分についてはインフレクターの交換が完了し、RING RF の水漏れは4月に工事予定、ビームライン分配電磁石の水漏れについては検討中である。

## Q-PAC報告（佐久間）

- 令和6年第2回P-PACの提言をうけて、SPring-8-II の議論を行ために12月に開催した（詳細については公開済み）
- LEPS-2 については令和9年度夏までに現在のプログラムを最適化して終わらせる予定である。
- SPring-8-II での実験計画に関連しハドロン物理実験全体のプログラムを見据え、RCNPのハドロングループの将来について検討する。
- 意見集約については小委員会を設定し進めることとなった。
  - P-PAC内から3名の小委員会委員（石川、佐久間、谷田）を選定し、小委員会の運営を委託した。
  - 令和8年夏までを目処に今後10年間におけるハドロン物理学へのRCNPのコミットメントについて答申書の作成を行う。

## 装置共用についての審議（大田）

- LEPSグループ管理のSolenoid 磁石借用についての説明が板橋氏（理研）より行われた。
  - 貸出先は理研であり、GSIにおいて使用する。令和11年実験実施予定。
- 説明を受けて審議を行った結果、貸出については認めることとなった。
  - 貸出は希望通り令和7年4月1日とするが、事務的な手続きおよび返還についてはRCNPと協議すべしとの答申案がだされた

## 加速器施設将来計画検討小委員会報告（前田）

- 前田小委員長より経緯の説明があった。令和6年3月12日に次回の委員会が開催される。

## 研究会報告（大田）

- 令和6年度開催分のうち報告済みの研究会について報告があった。
- 未開催分を含め次回の研計委にて報告される。

## B-PAC開催時期（青井）

- すでにバックログが169 RED (RING Equivalent Days) と、想定最大日数まで膨れ上がっている。
- 前回の開催からほぼ1年が経過しており次回の開催まで確実に1年以上の機関があくことになる。

- これまで加速器の安定性を見定めてからの開催ということで見送ってきたが、課題申請という機会の提供や採択による資金獲得への裏付けなど、特に若手研究者への影響を鑑みるとともに、加速器の状況が改善の兆しを見せていることから、バックログを多少増やすことを受け入れて、開催することが妥当との結論に至った。
- 現状のB-PAC委員から変更をせず、速やかに開催することとなった。
- B-PACを見送る原因となった加速器の不調に関連して、恒常的なマンパワーの欠如を憂慮し、センター長へ加速器グループのマンパワー不足の解消について依頼文書を送ることとなった。

## B-PAC 文面

- B-PAC開催にむけて文案が審議され、最終案が作成された。
  - 「センター長裁量マシンタイムにおいて、教育用マシンタイム以外の申請があった場合は、PPACでその可否を審議し、最終的なマシンタイムの配分についてはセンター長が判断を行う。」ことを確認した。

## P-PACプロジェクトおよびKKプロジェクト

- 終了しているあるいは終了が近づいているプロジェクトについて報告をお願いする。
- ビームタイム割当が不調となっているプロジェクトについては延長について申請者と国際共共支援室の間で協議する。

## 次回開催

- 4月予定

## 前回議事録

- 承認する